●桑沢デザイン研究所
案内地図

桑沢デザイン研究所
●昭和48年度　学校案内
〈発行〉
学校法人・桑沢学園●桑沢デザイン研究所
東京都渋谷区神南1-4-17　〒150
電話　03-463-2431

桑沢デザイン研究所1973●編集委員会
矢沢宏司／河本隆
D.西部図司／P.谷雅江
〈0910-10T〉

●学校法人・桑沢学園
桑沢デザイン研究所
学校案内／1973

●学校法人／桑沢学園

桑沢デザイン研究所

学校案内／1973

●学校法人／桑沢学園

桑沢デザイン研究所

学校案内／1973

〈目次〉

桑沢デザイン研究所沿革 3
教育スタッフ一覧 4
就学の案内 5
第Ⅰ部の案内 6
第Ⅱ部の案内 7
リビングデザイン科概要 8
リビングデザイン科1年／2年 10
リビングデザイン科研究科 12
ドレスデザイン科概要 14
ドレスデザイン科1年／2年 15
ドレスデザイン科研究科 16
デザインを志す人へ 18・19
第Ⅱ部概要 20
基礎造形科 22
デザイン科概要 24
グラフィックデザインⅠ／Ⅱ 25
パッケージング 26
インダストリアルデザイン 26
家具デザイン 28
インテリアデザイン 28
ドレスデザインA／B 29
就職・求人状況 32

桑沢洋子所長

●学校法人／桑沢学園

桑沢デザイン研究所 〈沿革〉

創立にさきだつ10数年以前より、桑沢所長は自身のデザイン活動をとおして、デザイン各分野の総合的な専門教育、およびそれらの基礎教育の重要性を痛感していました。

このような所長の理想と情熱に共感した現教授の方々の協力を得て、桑沢デザイン研究所が設立されました。

●桑沢デザイン研究所は、学校法人・桑沢学園を母体とする各種学校です。

学校法人とは、私立学校の設置を目的として、私立学校法の定めるところにより設立される法人をいいます。

各種学校とは、学校教育法第1条〈学校の範囲〉に掲げるもの以外のもので、学校教育に類する教育を行なうものをいいます。

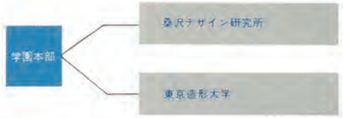
学校教育法第1条で示されている学校の範囲とは、小学校／中学校／高等学校／大学／高等専門学校／盲学校／聾学校／養護学校／幼稚園を指します。

以上のとおり、各種学校・桑沢デザイン研究所は、学校としての社会的地位において、かならずしも恵まれたものとはいえません。とくに国の予算で運営される国立／公立の学校や、国庫の補助・助成が大巾にうけられる私立大学と違って、本校にはこのような経済的特典はほとんどありません。したがって、授業料などの納付金と若干の寄付金を主にして、維持運営しなければならない厳しい道を歩んでいますが、創立いらい、このような逆境に抗して教育の成果を挙げるべく努力をつづけています。

●卒業生はすでに7500名を数えていますが、このような実状により施設／設備など不備な面が多くあることは否めません。

桑沢デザイン研究所は、これらの逆境に打ちかつ強い意志と、真に学ぶ意欲のある人のみを望んでいます。

●昭和29年4月――東京都港区青山に桑沢デザイン研究所を設立　〈所長／桑沢洋子〉
●昭和32年12月――学校法人・桑沢学園／桑沢デザイン研究所となる。
●昭和33年4月――校舎を現在の渋谷区に新設し、移転する
●昭和35年4月――第一次増築
●昭和36年12月――第二次増築
●昭和38年10月――創立10周年記念行事
●昭和41年4月――学校法人・桑沢学園　東京造形大学を開学　〈学長／桑沢洋子〉
●昭和43年3月――第三次増築
●昭和43年6月――創立15周年記念行事〈記念講演会〉



〈学校法人桑沢学園〉　理事長＝桑沢洋子　常務理事＝杉浦慎爾／山本哲也

「教育スタッフ」

ここに記載以外の講師もおります。
〈昭和47年7月現在〉

●印はⅠ部のみ担当　●印はⅡ部のみ担当　●●印はⅠ部とⅡ部とともに担当

デザインは、
物の外面的な装飾であったり、
単に販売促進のための表現である
のではなく、ひとびとの
生活の向上のために視覚伝達や
工業生産／生活環境を
より快適なものにしていこうとする
造形活動であります。
したがって、
単なる自己表現というより
生活や社会にかかわる表現であり、
デザイナーは
デザイン活動をとおして
社会や産業に貢献する文明的な使命を
もつものといえましょう。
そこで、離れ離れになっている
〈人間と機械〉〈芸術と技術〉
〈精神と物質〉を総合して、明日の
よりよい生活様式や
精神風土を創造することが、
デザイナーに期待されています。
桑沢デザイン研究所の教育は
以上の観点に立脚し、
造形感覚や構成力／象徴性や
機能性／創造力や技術を身につけ、
新しい物の見方や考え方をつかみ
デザインの基礎と本質を体得することに
重点をおいています。
そして、広い視野と教養をもった
人として社会において
デザインをとおして協同し、
根強く謙虚に貢献しうる人材の教育を
意図しております。

〈理論〉
- ● 芦原初子――英語
- ● 阿部公正――デザイン史
- ● 伊藤笙――ゼミナール
- ●● 井上耕一――デザイン論／ゼミナール／造形原論
- ● 折橋徹彦――ゼミナール
- ● 神之村あやめ――英語
- ● 川本勝――デザイン論
- ● 北山晴一――フランス語
- ● 木村良一――現代社会論
- ● 丹下とし子――英語
- ● 田中平八――造形心理学
- ●● 中島洋光――ゼミナール／近代美術史
- ● 中野光子――造形心理学
- ● 中村達也――ゼミナール／現代文明論
- ● 西江雅之――ゼミナール
- ● 信定宏郎――ゼミナール
- ● 林進――ゼミナール
- ● 松谷彊――近代美術史
- ● 村松仙太郎――ゼミナール
- ● 柳瀬徹夫――ゼミナール

〈美術〉
- ● 朝倉摂――絵画／イラストレーション
- ● 大谷久子――絵画
- ●● 大成浩――彫塑
- ●● 尾崎ふさ――絵画
- ● 小本晶子――コスチュームドローイング
- ●● 桜井敏生――彫塑
- ● 東千賀――絵画
- ● 前田常作――絵画／イラストレーション
- ●● 森彌栄子――絵画

〈構成〉
- ● 相場秀夫――構成Ⅰ／構成Ⅲ
- ● 石尾利郎――構成
- ●● 郡山正――構成A／構成Ⅱ
- ● 佐藤邦夫――構成Ⅰ
- ● 志賀のり子――構成Ⅰ
- ●● 須賀牧一――構成D／構成Ⅱ／構成Ⅲ
- ●● 高山正喜久――構成／構成B／構成Ⅲ
- ●● 戸村浩――構成C／構成Ⅱ
- ● 林健造――構成Ⅰ／構成Ⅲ
- ● 藤沢典明――構成Ⅰ
- ●● 真鍋一男――構成Ⅱ
- ● 宮沢タイ子――構成／構成Ⅰ
- ● 米谷誠一――構成D／構成Ⅰ／構成Ⅲ

〈グラフィックデザイン〉
- ● 秋山邦晴――専門講義
- ●● 芦部圀昭――基礎デザイン／レタリング／タイポグラフィ
- ● 植田理邦――シルクスクリーン印刷
- ● 内田広由紀――エディトリアルデザイン
- ● 大枝隆志郎――専門講義
- ● 岡田徹也――エディトリアルデザイン
- ● 小倉重男――現代文明論
- ● 柿崎長悦――タイポグラフィ
- ● 勝部篤子――専門講義
- ● 加藤南枝――石版印刷
- ● 金指宰明――タイポグラフィ
- ● 金子善彦――エディトリアルデザイン
- ● 川俣正一――印刷概論
- ● 木戸啓――専門講義
- ● 木村浄司――専門講義
- ● 草刈順――デザイン
- ● 楠原義一――デザイン
- ● 窪田勝雄――専門講義
- ● 後藤英雄――タイポグラフィ
- ● 小林邦雄――専門講義
- ● 佐藤敬之輔――タイポグラフィ
- ● 杉田豊――専門講義
- ● 高島義雄――専門講義
- ● 高橋敏彦――アドバタイジングデザイン
- ● 田保橋淳――専門講義
- ● 田宮督夫――デザイン
- ● 千代将男――専門講義
- ● 壷井良直――専門講義
- ● 原田勤――デザイン
- ● 針生一郎――専門講義
- ● 藤原昌美――基礎デザイン
- ● 古村理――専門講義
- ● 松川宏明――印刷概論
- ● 松本八郎――タイポグラフィ
- ● 美坂哲男――専門講義
- ● 道吉剛――タイポグラフィ
- ● 三平三雄――専門講義
- ● 美作太郎――専門講義
- ● 森野真弓――銅版印刷
- ●● 森啓――エディトリアルデザイン
- ●● 薬師神親彦――基礎デザイン／タイポグラフィ
- ●● 矢沢宏司――デザイン／色彩構成
- ● 矢作勝美――専門講義
- ● 山口克己――デザイン
- ● 吉川至郎――タイポグラフィ
- ● 吉田喜重――特別講義
- ● 吉田千鶴子――木版印刷

〈パッケージデザイン〉
- ●● 芦原晉――専門講義＝材料
- ● 石井宏市――容器デザイン
- ●● 奥村恒夫――デザイン
- ● 木村勝――デザイン
- ● 河野五郎――デザイン論
- ● 古口謙二――ディスプレィデザイン
- ●● 志津野知文――専門講義
- ● 清水浩――専門講義
- ● 鈴木理恵――ゼミナール
- ●● 高橋満寿男――デザイン論
- ● 瀬本唯人――デザイン論
- ● 山本茂――専門講義
- ●● 横山徳禎――デザイン／デザイン論

〈写真〉
- ● 秋山実――写真
- ● 伊藤逸平――写真
- ● 瀬田登久子――写真
- ● 大江清司――写真
- ● 河合玲二――写真
- ● 北代省三――写真
- ● 曽宇厚之――ゼミナール
- ●● 谷雅江――写真
- ● 角田研一――写真
- ● 波多野哲朗――映画
- ● 英伸三――報道写真
- ● 樋口忠男――写真
- ● 平野久――写真
- ● 保積英次――感光材料
- ● 松岡正剛――デザイン論
- ●● 村井典彦――写真
- ● 目島計一――写真
- ● 柳本尚規――写真文化史
- ● 脇リギオ――カラー写真

〈インテリア・住宅デザイン〉
- ● 新雅夫――専門講義＝設備
- ● 市瀬昌昭――基礎デザイン
- ● 内田繁――インテリアデザイン
- ● 戎居研造――住宅デザイン
- ●● 遠藤誠之――インテリア・住宅デザイン
- ● 大沢良二――住宅デザイン
- ●● 鍵和田務――専門講義＝家具史
- ● 角取猛司――専門講義＝照明計画
- ● 片谷克也――家具工作＝木材加工
- ●● 小管理宏――住宅デザイン
- ● 佐藤なお――住宅デザイン
- ● 白石勝彦――インテリア・家具デザイン
- ● 白沢宏規――住宅デザイン
- ● 杉浦弘高――住宅デザイン
- ● 角永博――住宅デザイン
- ●● 清家清――住宅デザイン
- ●● 高村英也――ディスプレイデザイン
- ● 多田美波――照明器具デザイン
- ●● 土屋義孝――住宅デザイン／図学
- ●● 手塚敬三――家具工作＝金属加工
- ● 中村圭介――家具デザイン
- ● 長岡貞夫――家具デザイン
- ● 伸田邦生――住宅デザイン
- ● 中田重克――インテリアデザイン
- ● 西岡徹――インテリアデザイン
- ● 林雅子――住宅デザイン
- ● 福島保信――基礎デザイン／住宅デザイン
- ● 福田友美――家具デザイン
- ● 藤森健次――インテリアデザイン
- ● 堀英夫――専門講義＝建築金物
- ● 村松貞次郎――特別講義
- ● 村口昌之――専門講義＝建築デザイン論
- ● 村越康――家具工作＝プラスチック加工
- ● 山川譲――家具工作＝藤加工
- ●● 山口勇次郎――家具デザイン
- ●● 山田晃――表現技術

〈インダストリアルデザイン〉
- ● 秋田穂積――デザイン
- ● 泉真也――ゼミナール
- ●● 魚住双全――表現実習
- ● 鵜飼義一――材料
- ●● 内村喜之――デザイン
- ● 岡田朋二――デザイン論
- ● 小俣紀之――デザイン
- ●● 金子至――デザイン／現代デザイン論
- ● 小木原光治――デザイン
- ● 杉下禄郎――現代デザイン論
- ● 寿美田与市――デザイン
- ● 豊口克平――専門講義
- ● 豊口協――現代デザイン論
- ● 中村次雄――材料
- ● 中村秀男――材料
- ● ジョセフ糖沢――特別講義
- ● 本間英樹――デザイン
- ●● 真水公雅――デザイン
- ●● 山本孝造――デザイン論
- ● 四本和己――専門講義

〈ドレスデザイン〉
- ●● 安達市三――専門講義
- ●● 安倍和重――パタンメーキング
- ● 安斎千鶴子――デザイン論
- ●● 飯塚春次郎――縫製技術
- ● 五十嵐都美――技術
- ● 石田恭一――被服各論
- ● 伊東真紀子――デザイン
- ● 入谷清英――コスチュームドローイング
- ● 伊藤英三郎――専門講義
- ● 海本小織――パターン
- ● 大空淑子――モデリング
- ● 小川安朗――被服概論
- ● 小川洋子――デザイン
- ●● 川合優――デザイン
- ● 北岡幽子――デザイン
- ● 国方澄子――モデリング
- ● 桑沢かね子――技術
- ●● 桑沢洋子――デザイン
- ● 小林茂雄――被服各論
- ●● 根田みさ――デザイン
- ● 近藤英――染色
- ● 斉藤睦――デザイン
- ● 笹原紀代――ピンワーク
- ● 佐藤みさ子――デザイン
- ● 塩谷智子――特別講義
- ● 鈴木栄三郎――特別講義
- ● 鈴木正俊――ゼミナール／現代文明論
- ● 相馬二美子――デザイン
- ● 高松大郎――特別講義
- ● 田実栄子――被服各論
- ● 谷長二――被服各論
- ●● 谷二三――デザイン／作図
- ● 土肥悦子――織物
- ● 嚊波宏明――染色化学
- ● 友部直――被服各論
- ● 豊田高代――デザイン
- ● 中田幸平――被服各論
- ● 野末和志――染色
- ● 塙経亮――技術
- ● 原田二郎――服装史
- ● 平田暁夫――帽子
- ●● 福村千英子――デザイン
- ● 前田晃子――デザイン
- ● 前田伸生――デザイン論
- ● 蓑輪豊子――ドレーピング
- ● 宮内裕――モードドローイング
- ● 村上勝彦――ゼミナール
- ● 本吉春三郎――被服各論
- ● 諸岡美津子――デザイン
- ● 森妍子――デザイン
- ●● 矢島功――コスチュームドローイング
- ● 柳悦孝――織物
- ● 山本順子――デザイン
- ● 山本良子――被服材料
- ● 横山雄一――デザイン
- ● 四本貴實――染色

「就学の案内」

●学校法人、桑沢学園、桑沢デザイン研究所は第Ⅰ部（昼間部）と第Ⅱ部（夜間部）とからなり、第Ⅰ部はリビングデザイン科とドレスデザイン科に分かれ、第Ⅱ部はデザイン科と基礎造形科に分かれています。修業年限は第Ⅰ部が2か年で、更に研究科（1か年）があります。第Ⅱ部はそれぞれ1か年の修了となっております。

●授業は定められた日程にしたがって行なわれます。各部科とも授業期間は前期（4月より9月まで）と、後期（10月より翌年3月まで）の2期に分かれています。
休業日は日曜日／国民の祝日／創立記念日（12月20日）／都民の日（10月1日）／夏季休業（7月21日より8月31日まで）／冬季休業（12月21日より翌年1月10日まで）／春季休業（3月21日より4月9日まで）／その他、臨時休業となっています。
授業時間は第Ⅰ部が午前9時30分、第Ⅱ部が午後6時に、それぞれ開始されます。

●本校の所定の課程を修了したものには、教授会で認定のうえ、卒業証書または修了証書が授与されます。卒業と認定される学生は第Ⅰ部の2年および研究科（3年）の課程を修了したもので、修了と認定される学生は第Ⅱ部の課程（1か年）を修了したものです。
課程修了の認定は試験・レポート・課題作品および出席などにより教授会で行われます。
第Ⅰ部の1・2年の課程をそれぞれ修了したものは、教授会の決定により、その部科の上級学年に進学が許可されますが、本校では自動的に進学できるのではなく、各自が進学の申請を行い、教授会で審議されることになっています。進学にあたっては、試験・課題作品・面接などによる選考が行われることがあります。また、学年をとび越えての進学、科を変えての進学はできません。
第Ⅱ部の課程修了の認定を受けたものは、第Ⅱ部の他の科または他のコースに対して、再入学の資格が得られることになっています。

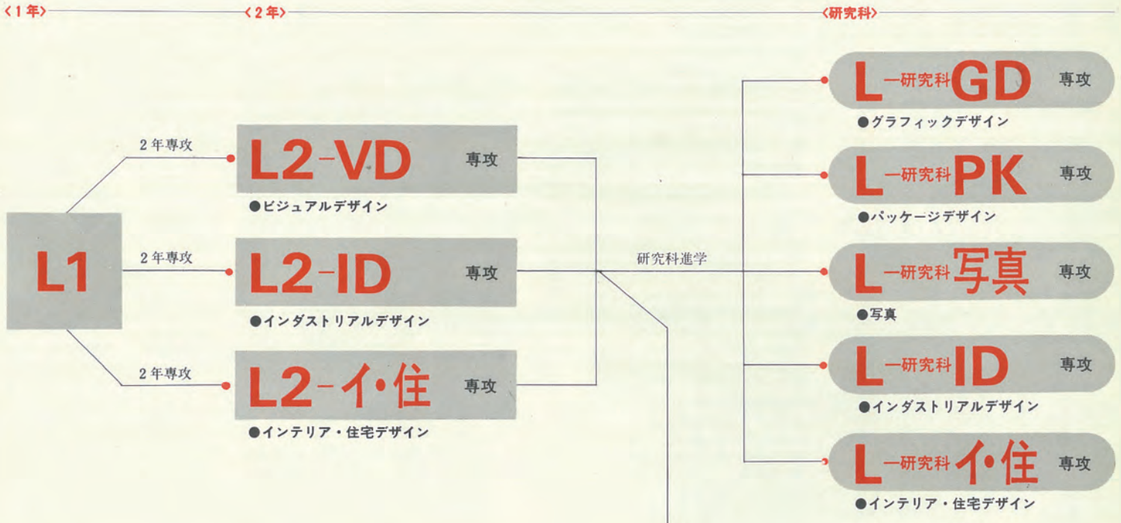
●本校には留年制度がありません。教授会で成績不良などにより課程の修了が認定されなかった場合は、未修了となり、自動的に退学となります。従って、第Ⅰ部では進学・卒業ができず、第Ⅱ部では修了ができなくなります。なお、転部／転科／転コースは許可されないことになっていますので、ご注意ください。

●以上、昭和47年度による。入学者には、入学手続の際、昭和48年度版就学案内を配布しますので、熟読してください。

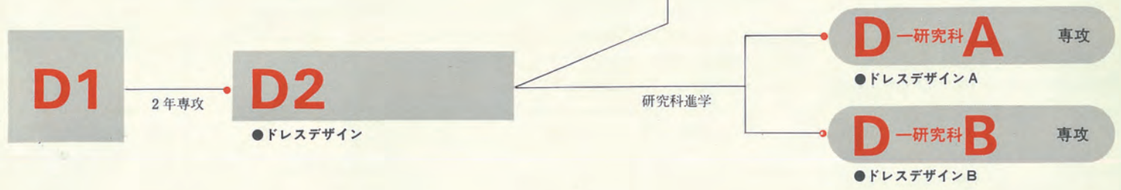
「第Ⅰ部」

リビングデザイン科とドレスデザイン科があり、2年で卒業します。研究科の各コースは2年卒業見込者で、進学を希望する者の中から選考のうえ、進学します。
入学資格は、リビングデザイン科／ドレスデザイン科とも、高校卒業以上です。

●リビングデザイン科



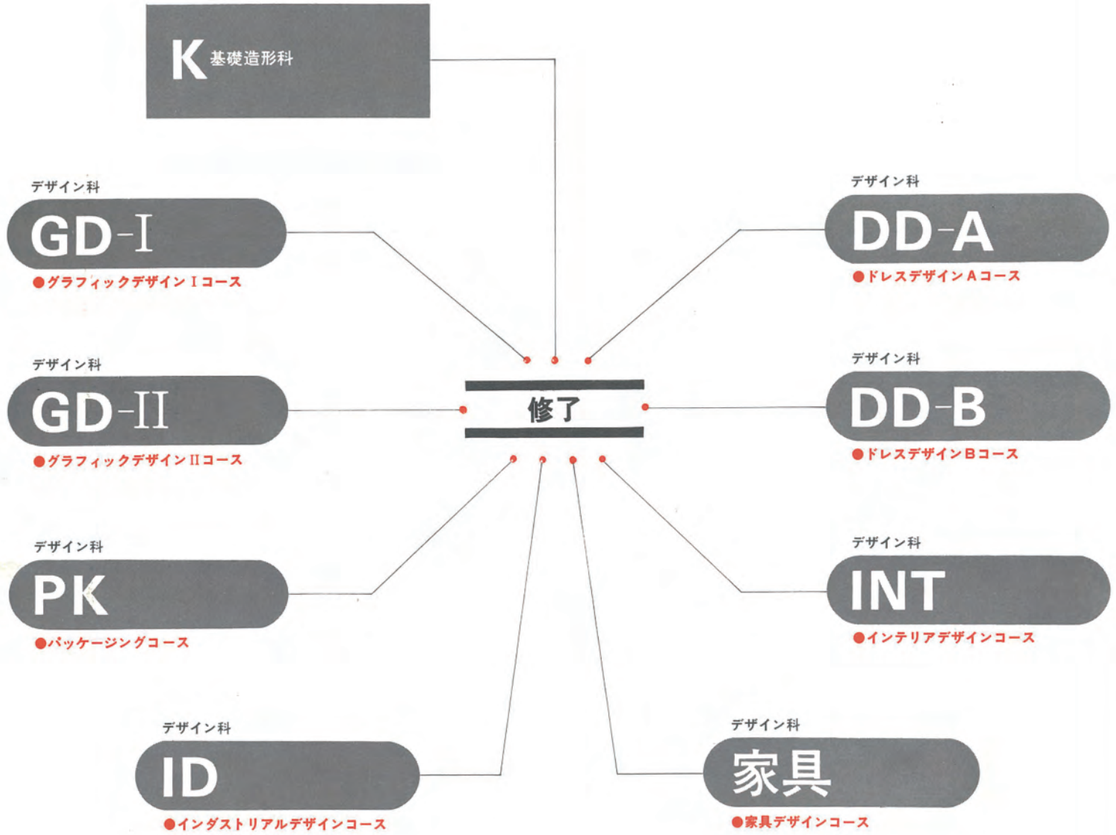
●ドレスデザイン科



「第Ⅱ部」

●基礎造形科
●デザイン科

デザイン科と基礎造形科に分かれ、デザイン科は8コースに分かれている。修業年限はデザイン科、基礎造形科とも1ヵ年。入学資格は基礎造形科／高校卒業以上(卒業見込者を含む)。デザイン科／高校卒業以上で次のいずれかに該当する人〈❶—本校Ⅱ部におけるいずれかの科・コースを修了したもの。❷専門デザインにかかわる1年以上の経験者。❸—美術・デザインにかかわる学校(高校卒業以上)の2年以上の修了者〉
デザイン科は2コースを同時に併修できる場合がある。例—GDⅠとPK、GDⅡとPK、INTと家具、IDと家具、DDAとDDBなど。併修についての詳細は教務部へ問合わせてください。



リビングデザイン科

概要

リビングデザイン科1年／2年／研究科

この科は、ドレスデザインを除く、生産、環境、伝達に関する広範なデザイン諸分野にわたっての専門教育をおこなっています。

1年では、基礎課程として、将来デザイナーになることへの積極的な意欲と資質をもった学生に対して、その潜在する資質をひきだすとともに、学生が自からの能力を開発し得るように教科が組まれ、指導されます。

なおそれぞれのデザイン分野の意義や相互関係を知り、自己の適性を判断して将来の方向をきめるための授業もおこなわれています。

2年では、造形実習をいっそう深めていく一方、ビジュアル、インダストリアル、インテリア・住宅の三者から一つのデザインを選んで専攻します。

ここでは、1年で開発された創造能力をさらに発展させつつ、デザインを職業とする上で欠かすことのできない技術や理論の学習を通して、専門デザインの理解を高めていくように指導されます。

研究科（3年）では、2年までの課程を優れた成績で修了し、なおデザイナーとして意志強固な人を専攻コース別に少数選抜して、専門分野をより深く研究させ、その能力の向上をはかっています。

修業年限は2年または研究科に進学する場合は3年ですが、デザイン各分野で活躍しているかたがたを教授スタッフに迎え、そこで十余年にわたって検討を続け、実施されてきた授業の内容は、全く研究所独自のものということができます。

L1 リビングデザイン科／1年

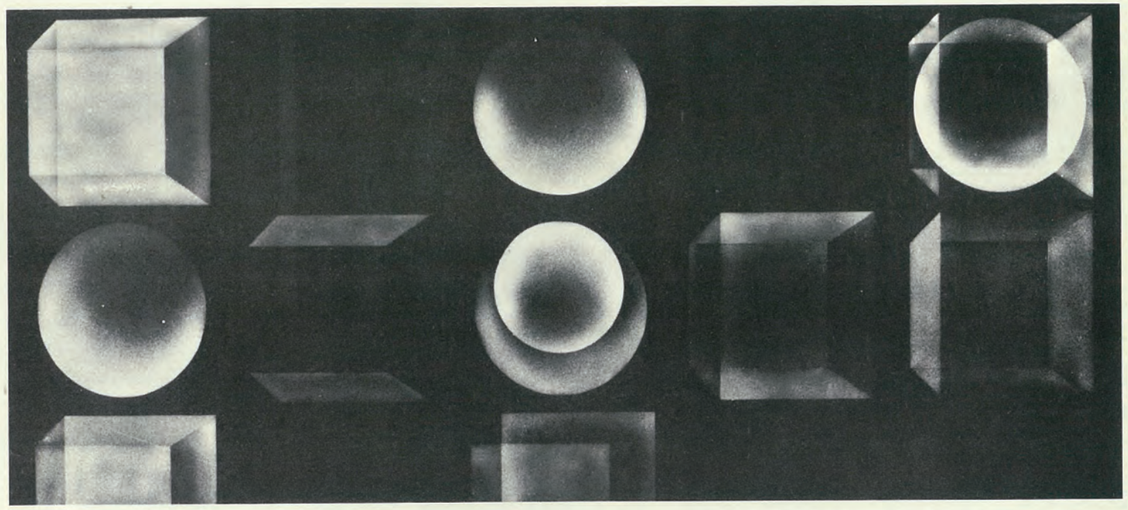
●科目内容

構成〈構成Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ〉
美術〈絵画／彫塑〉
基礎デザイン〈視覚伝達／住空間／生活機器〉
理論〈デザイン論〉
自由選択〈英語／ゼミナール〉

L2 リビングデザイン科／2年

●科目内容

●ビジュアルデザイン専攻
〈レタリング／タイポグラフィ／色彩構成／パッケージング／写真／印刷概論／現代文明論／デザイン論〉
●インダストリアルデザイン専攻
〈デザイン製図／表現実習／デザイン／材料／現代デザイン論／デザイン論〉
●インテリア・住宅デザイン専攻
〈製図／インテリアデザイン／家具デザイン／住宅デザイン／材料／デザイン論〉
各専攻共通選択〈構成／写真／絵画／彫塑〉
自由選択〈デザイン史〉



1年では、各分野に共通する基礎の学習として、造形の要素を総合した授業をおこない視覚の法則や発想の方法を与えるとともに、造形感覚をひきだすことによって創造の芽の発足を促し、あわせて初歩的な表現方法の訓練をします。
また、デザインの全体像を正しく認識することで視野を広げ、将来の専門を方向づけられるように、住空間、生活機器、視覚伝達に関する学習を、基礎デザインとしておこないます。
さらに、デザイン活動の広い基盤の総合的な理解と判断をする力、および創造的に思考する能力を養うために理論科目をも重視しております。

2年では、専門デザインの本質を把握するための基礎学習がおこなわれます。
このために、一方では、基本的な造形力に一段と高度な技術練習も加えつつ、基礎造形を充実展開させます。
また他方では、視覚伝達、工業生産、生活環境の立場から、ビジュアルデザイン、インダストリアルデザイン、インテリア・住宅デザインの各分野ごとの職業にたずさわる人を育成することを目的として、広範で充実した訓練を重ねるとともに、職業人としての厳しい態度を養います。

リビングデザイン科

L-「研究科」

●科目内容

●L－研究科〈GD専攻〉
グラフィックデザインA／B
イラストレーション
タイポグラフィ
印刷実習〈凸版／シルク／石版／銅版／木版〉
専門講義／特別講義
ゼミナール

●L－研究科〈PK専攻〉
パッケージデザイン
レンダリング
包装材料
パッケージング論／デザイン論
ゼミナール

●L－研究科〈写真専攻〉
スタジオ実習／報道写真
映画
感光材料
写真概論／写真文化史
ゼミナール

●L－研究科〈イ・住専攻〉
インテリアデザイン
住宅デザイン
家具デザイン
専門講義／特別講義
ゼミナール

●L－研究科〈ID専攻〉
インダストリアルデザイン
レンダリング
デザイン論
ゼミナール

●その他〈校外実習／合評会／見学／旅行〉

2年までを、入学したすべての学生に用意された課程とするなら研究科は、その中から、優れた資質と積極的意欲をもった学生を少数選抜し、専門分野における各自の能力を深め発展させていく、いっそう厳しい課程であるといえます。
ここでは、各専攻コースごとに、主任教授を中心としてデザイナーや理論家、技術者などの教師のもとで、討議や実習によって研究所独自の課題研究がすすめられます。例えば企業におけるデザインの実態とその関連や把握、また広く人間社会の将来像をデザインの視点に立って考察しアプローチを行なったり各自の研究によるデザイン課題の定着化を行なったりします。
また各人の特性に応じて、その専門コースの中で分化された職域にも応じられる人材を育成することも目標の一つです。
いずれのコースにおいても、直接教師の人柄、思考課程、技術指導にふれるとともに、自主的な問題解決の態度や考え方が啓発され、真剣で地道な研さんがおこなわれています。

I部

ドレス デザイン科

概要

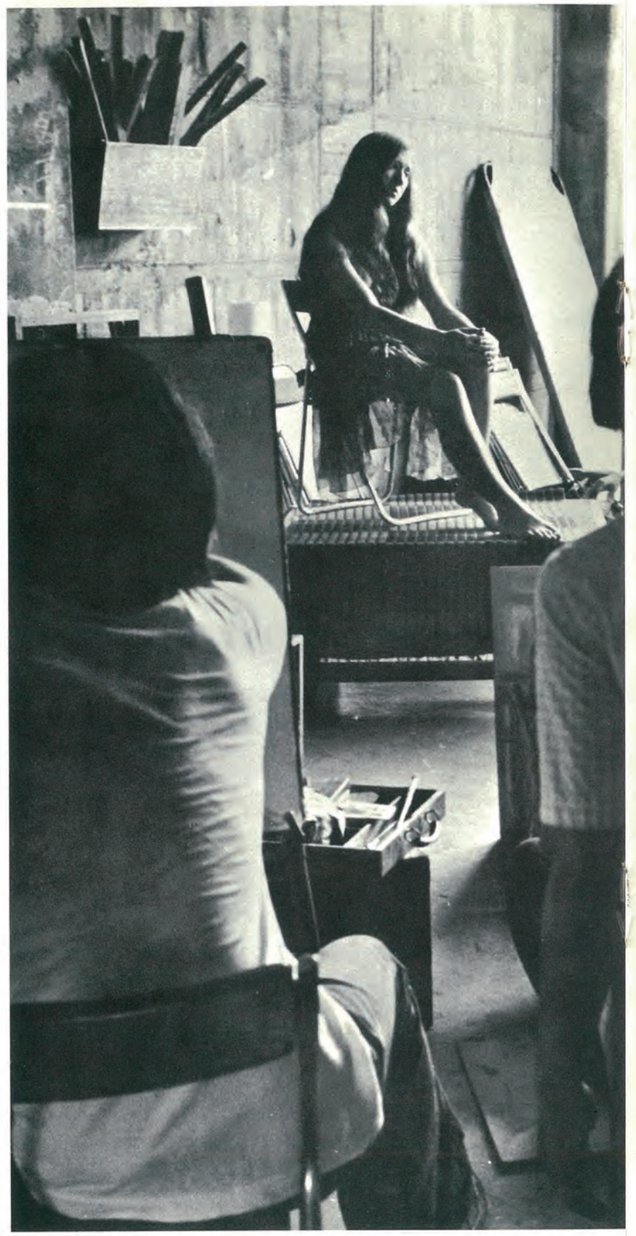
ドレスデザイン科1年／2年／研究科

これからのドレスデザイナーは、私たちの生活のうちでも最も身近な衣生活を、より美しく合理的に向上させていくという役割に加えて、繊維自体をデザインし選別する能力、あるいは衣服を工業製品として扱い、その生産をディレクトしていく能力などが要求される段階になっています。

本校のドレスデザイン科は、デザインの本質とデザイナーとして必要な広い教養を身につけることを重視し、確かな造形力を把握させることに目標を置くと同時に、特に最終課程では、優れた資質とドレスデザインへの意志のはっきりした学生を少数選抜し、専門の分野をさらに深く研究し、将来、服飾界において指導的立場で仕事のできる人材を養成するための、特徴ある教科を組んでいます。地道に検討された授業内容は、全く研究所独自のものということができます。

1年では、ドレスの基礎技術と平行して、各種のデザインに共通の造形感覚の基礎訓練をおこない、各人の個性をひきだし、観念的な物の見方を打破しながら、新鮮な創意を発揮できるような教育をおこないます。

2年、研究科（3年）においては、基礎理論を展開させたデザインの表現実習や表現技術の学習をとおして、職業人としての能力を高めるとともに、服飾界および繊維界で活躍しているかたがたを招いてその豊富な体験による指導によって、多角的にドレスデザイナーに欠かせない素養を深めていく授業がおこなわれています。



D1 ドレスデザイン科／1年

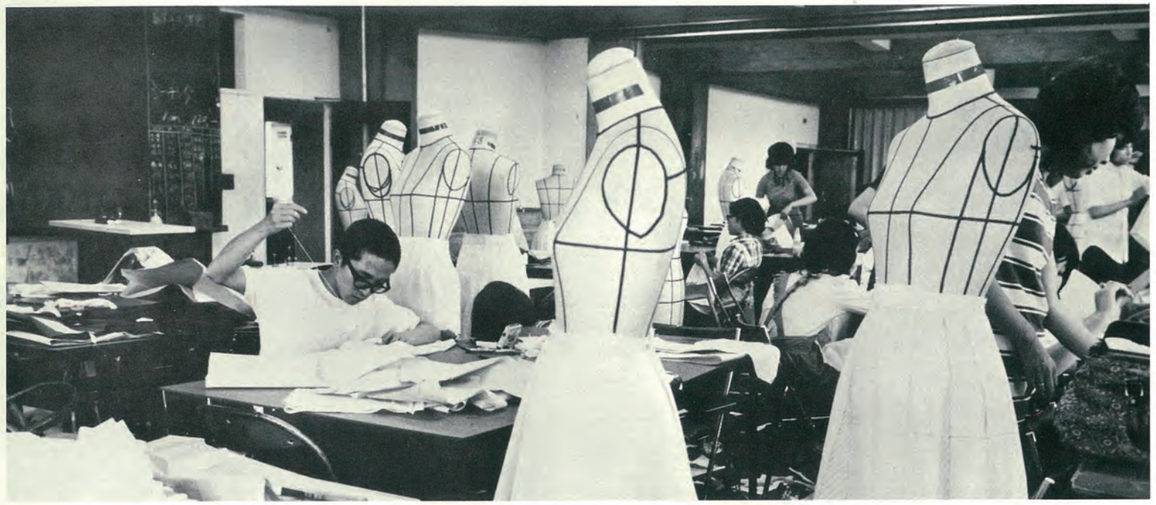
●科目内容

構成〈色彩の基礎〉
美術〈デッサン〉
ドレスデザイン〈理論と実習Ⅰ／製図／モデリング／縫製／服装史／被服概論／被服材料〉
理論〈デザイン論〉
自由選択〈英語／ゼミナール〉

D2 ドレスデザイン科／2年

●科目内容

構成〈平面構成〉
ドレスデザイン〈理論と実習Ⅱ／専門講義／製図／モデリング／縫製／コスチュームドローイング〉
理論〈現代文明論〉
自由選択科目〈デザイン史〉



1年は、ドレスデザインの基礎課程であり、色彩、デッサンなど造形感覚の基礎練習によって、構成力を高めると同時に、創造的な思考力を養うことを目的とし、理論科目にも重点が置かれています。

ドレスデザインの基礎理論と基礎感覚実習を通して、ドレスの色、形、材質等の基本的な知識を体得し、生活環境と衣服の社会性、人間工学に立脚した衣服のありかたなどを、とらえさせます。

また、合理的な製図と裁断理論にもとづいた技術の実習もあわせておこない、ドレスの正しい表現や製作の訓練が、確実にすすめられます。

2年では、基礎造形やドレスデザインの基礎理論および実習をし、さらに応用面に展開します。

デザインの発想練習をとおして、ドレスデザインへの方向づけをし、各人の個性を伸し創造力を高めるとともに、社会への対応力を培うことを目指しています。

技術面では基礎製図の発展から、モデリングにより、立体の量感を把握しながら、デザインの実際的な表現方法や、縫製の理論が指導されます。

またデザインの視野を広めるために専門講義やデザイン論、そのほかの講義がおこなわれます。

ドレスデザイン科

D-「研究科」

●科目内容

●D－研究科〈A専攻〉
ドレスデザイン
モードドローイング
製図
モデリング
必修選択〈産業デザイン／テキスタイルデザイン〉
デザイン論
専門講義〈被服各論〉
ゼミナール

●D－研究科〈B専攻〉
ドレスデザイン
モードドローイング
製図
モデリング
技術実習
デザイン論
専門講義〈被服各論〉
ゼミナール

研究科（3年）では2年を修了し、将来への意志の確かな学生を少数選抜して、専門家としての能力を深めます。
2年までの基礎的な造形の上にたって、さらに専門技術として深く研さんするために、2つのコースに分れた授業内容が組まれています。
Aコースは産業デザインを指向し、そのデザイン技術について量産デザインを前提とした機能性や生産性、素材の把握などに力を置き、発想力や企画力を養うことを目標とします。
特に素材の知識を深くするためにテキスタイルデザインの基礎実習を選択科目として選ぶこともできます。
Bコースは主に個のものから出発して、高度な表現技術の作業を通じて、ドレスデザインをアプローチしてゆく姿勢をとり、専門的な技能を修めることを主眼としています。
これらの指導は、実際に活動しているデザイナー、理論家、技術者などを交えておこなわれ直接教師の人格及び思考過程に触れることによって多角的な面からの研究を積むことができます。

デザインを志す人へ

「術」

桑沢学園理事・教授／建築家 清家 清

●デザインというのは芸術の一部門だと思っているひともある。デザインは技術の一部門だと思っているひともある。私はいまここでそれを芸術であるとか技術であるとか断定するつもりはないし、どちらでもよいと思っている。しかし、デザインが芸術であれ技術であれ、それがひとつの術だとすると、術の伝習というものは、マスプロ教育には向かないのではなかろうか。事実、マスプロではそうした術の教育ができないだろうことはむかしから判っていたことで、剣術でも忍術でも、あるいは医術のようなものでも、すべて術の伝習は、名人といわれるようなひとたちが、その高弟に一対一の秘伝として伝習させ伝承させている。

桑沢デザイン研究所はCollegiate School(大学程度の学校) ではあるが、単なる教養人、文化人をつくる大学ではなくて、本当のプロのデザイナーをつくるための術の道場である。この国では大学というのは大きな学校という程の意味で、大量の学生をマスプロ教育して、トコロテン式に卒業させれば事足りているところが多い。しかし、われわれの研究所は、本当に腕を磨いてプロに徹しようという青年を少数精鋭主義で教育し送り出してきた。そして、世の中の理解に支えられ、卒業生たちは諸君が知っている通り、第一線で活躍している。

この研究所では文字通り、先生と学生がひざを交えて、先生が学生の手をとって教えている。だから単位だけとればよいような怠け者の学生はついて行けないで、途中で落伍してしまう。才能のない学生は一刻も早くやめたほうが、本人にとっても学校にとっても利益がある。デザインを金儲けのためにやろうと思っている学生もついて行けないかもしれない。デザインだけでなく、どんな仕事でも、好きでなければだめなのは当然のことで、デザインを勉強するのは、金儲けのためや、ただカッコがいいからというような理由でデザイナーを志望しても、本当にプロに徹する煉磨は、デザインが好きでなければできるものではない。逆に、ことばが悪いが、デザインの仕事というのは金儲けの話、経済的な問題というか、そろばんがもてるということも大切な点で、売れるとか売れないというようなことを考えなくてもよい純粋美術といわれる絵描きや彫刻家とは根本的にちがっているわけである。

したがって、デザインというものは、いつでも、金はないがよいものをつくりたいという矛盾にはじまって、多くのジレンマの中に置かれている。卒業して一人前のデザイナーになるとなおこそ、その矛盾を感じるにちがいない。しかしその矛盾こそプロというものの宿命のような気もしているのであって、これも、もしデザインが好きというなら、悔むこともないはずだ。近頃のように猫もしゃくしもデザイナーと称するようになっては、デザインブームもあと数年でさげ潮になるにちがいない。そういうときにも、本当にデザインが好きでデザイナーになった人たちなら、別に悔むこともないだろう。

何も折角デザイナーになりたいというひとをおどかしているわけではないのだが、デザイナーになるということは、きびしい訓練と不断の研究と努力が必要なのであって、他の分野のひとたちと協同のできる広い視野と、深い教養と、高い技術をわれわれと一緒に勉強して行けるような学生なら、きっと大成するにちがいないと信じている。

●(住宅デザイン担当)

デザインを志す人へ

「美しき魂」

桑沢学園理事・教授 真鍋一男

●ギリシャ神話のプロクルステスという悪魔は、ベッドより長い旅人は頭や足を切り、短い旅人はベッドの長さに引っぱって殺してしまったという。物に人間を合わせて人間を殺すような怪物を退治し、物や技術を人間のためのものに形成して社会の幸福を増進しようとしているのがデザインの良心である。

しかもデザインは物に人間が使うための機能を与えることにとどまらない。

建築にしても工業製品にしても、すぐれたものに接すると、そのアイデアや技術に感心もするが、よりその造形的統合力に感動する。アイデア倒れしたり、技術に振り回されたりしないでそれらを堂々と、あるいは的確に駆使したデザインだと思う。そしてその材料や形や空間に、構造や技術の抵抗をこえた意志や、総合した人間の大きささえ感ずる。実用的機能、物理的構造、合理的生産、経済的制約や人間的欲求など、互いに矛盾する諸要求が、造形的に統合されて無理のない全体を構成していることに、背後の人間や風土さえ感じる。まさに物質や技術に人間のことばさえのりうつる。

デザインが純粋美術でないことは当然であるが、科学技術と対立するものでなく、その成果を駆使すべき造形活動である。物や技術に人間がおしつぶされるのでなく、物や技術を人間のために快適なものにすることがデザインであればこそ、バウハウスもそうであったように、たとえば敗戦の荒廃の跡を、単なる物質的技術的再建でなく、都市に精神的な容姿や、生活に新しい様式を与えようと願ったのである。

もともとかつて芸術は社会環境形成の極めて重要なデザイン的役割を果たしていたが、「芸術のための芸術」のスローガンがそれを終わらせたばかりでなく、技術の所産を人間の為のものにする努力を芸術家が逃避してきた。

「芸術のための芸術」でなく、「民衆のための芸術」でなければならないと主張したW．モリスはいみじくも「芸術とか文化とかの問題はナイフやフォークの問題よりも優位になければならぬ、というようなことをいう人々は、芸術とは何かということを理解していない」と断言したし、同じようにマックス・ビルは、デザインは「スプーンから都市にいたるまで、人間的な環境を形成すること」であるといっている。またモホリ・ナギーはデザイナーの頭を集中するのは「製品によりも、人間の目的に対して」であると、デザインのビジョンを述べている。すなわちデザインは人間のより幸福な生産・伝達・環境の機能的な要求を造形的に統合することによって、新しい生活様式や明日の精神風土を形成する先駆的な役割をになっているものといえるのである。

かようなデザインに志すことになった人々は、必ずや美しい心をねがった祖先に縁の浅からざる青年であると思わざるをえない。美しい魂をもってつらぬいてくれるものと信じている。

●(構成担当)

「第Ⅱ部」概要

基礎造形科
デザイン科〈GD-Ⅰ／GD-Ⅱ／PK／ID／家具／INT／DDA／DDB〉

第Ⅱ部（夜間）は昼間勤務している人、とくにデザイン関係の仕事にたずさわっている人たちを主な対象としています。
科の編成はデザイン科と基礎造形科が併列しておかれ、学ぶ人の資格や条件に応じてどの科からでも学べます。たとえば、昼間デザイン現場に勤務している人が、基礎造形科において創造的なあたまの解きほぐしや、新鮮な発想・感覚について学ぶケースは好例といえます。また勤務の都合などによって、年度を隔てても学べます。そのため両科とも独立した1ヵ年の修業年限になっています。
夜間の授業は、なんといっても厳しい時間的な制約があり、このことは学ぶ人にとっても、学校にとっても、大きな障害となっています。今日、デザインについて学ぶべき領域はますます拡がり、その内容が一層深まっている実状にあって、夜間の短期間でデザイン全般の教育、初心者がデザインの第一歩からデザイナーとして就職するまでの継続したデザイナー養成教育を望むことはきわめて困難といえます。
修業年限についていえば、長年の統計により、昼間勤務して夜間通学可能な年限は平均1ヵ年であり、2年間が限界であること、授業日数については毎日授業は負担が重く、途中での挫折率の高いことを示しています。
これらの諸点から、科を併列させ、年限を1ヵ年とし、授業日数を週3～5日としてあります。したがって第Ⅱ部の教育は、昼間の段階的・継続的教育とは、おのずから異ります。
デザイン科は、後述のように8専攻あります。主な内容は、デザインについての基礎的理解と表現力の養成を演習と実習によって進め、あわせてデザインをめぐる実際的な理論の講義をおこないます。授業は週3日。
基礎造形科は、造形の原理、造形感覚および表現技術について演習、実習をおこない、広い意味での創造の芽をつちかい、感覚のトレーニングを意図しています。また造形にかかわる理論につき最少限度の講義をおこないます。授業は週5日。

K 基礎造形科

●科目内容

構成〈構成Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ〉

美術〈絵画／彫塑〉

自由選択（表現実習）

〈工業製図／建築製図／レタリング／コスチュームドローイング〉

自由選択（理論）

〈造形原論／近代美術史／現代社会論／造形心理学〉

基礎造形科は、広範囲な造形活動における造形感覚や構成力を体得することを目的としそのための授業科目として、構成、美術、基礎表現実習、造形理論の各教科によって組立てられています。

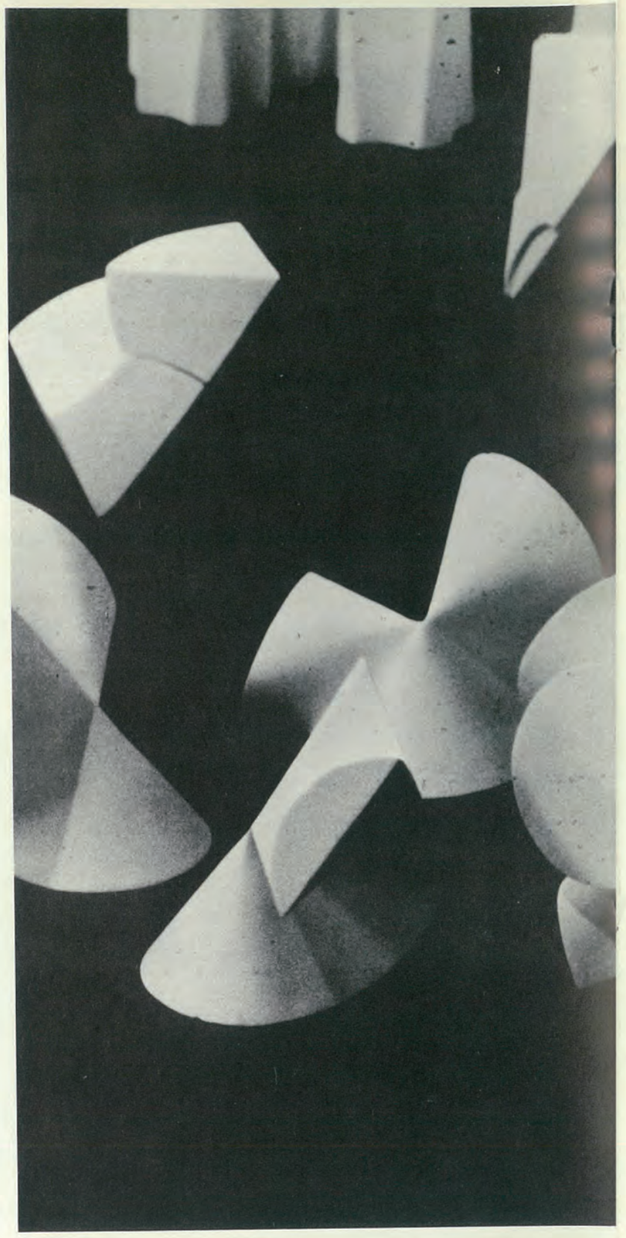
構成では、各造形要素の学習をとおして、造形思考を拡充させ視覚の法則や発想の方法を与えるとともに、形態表現の基礎的力を養います。また各種の用具や材料を体験することで個性の表現に導き、創造の萌芽を促します。

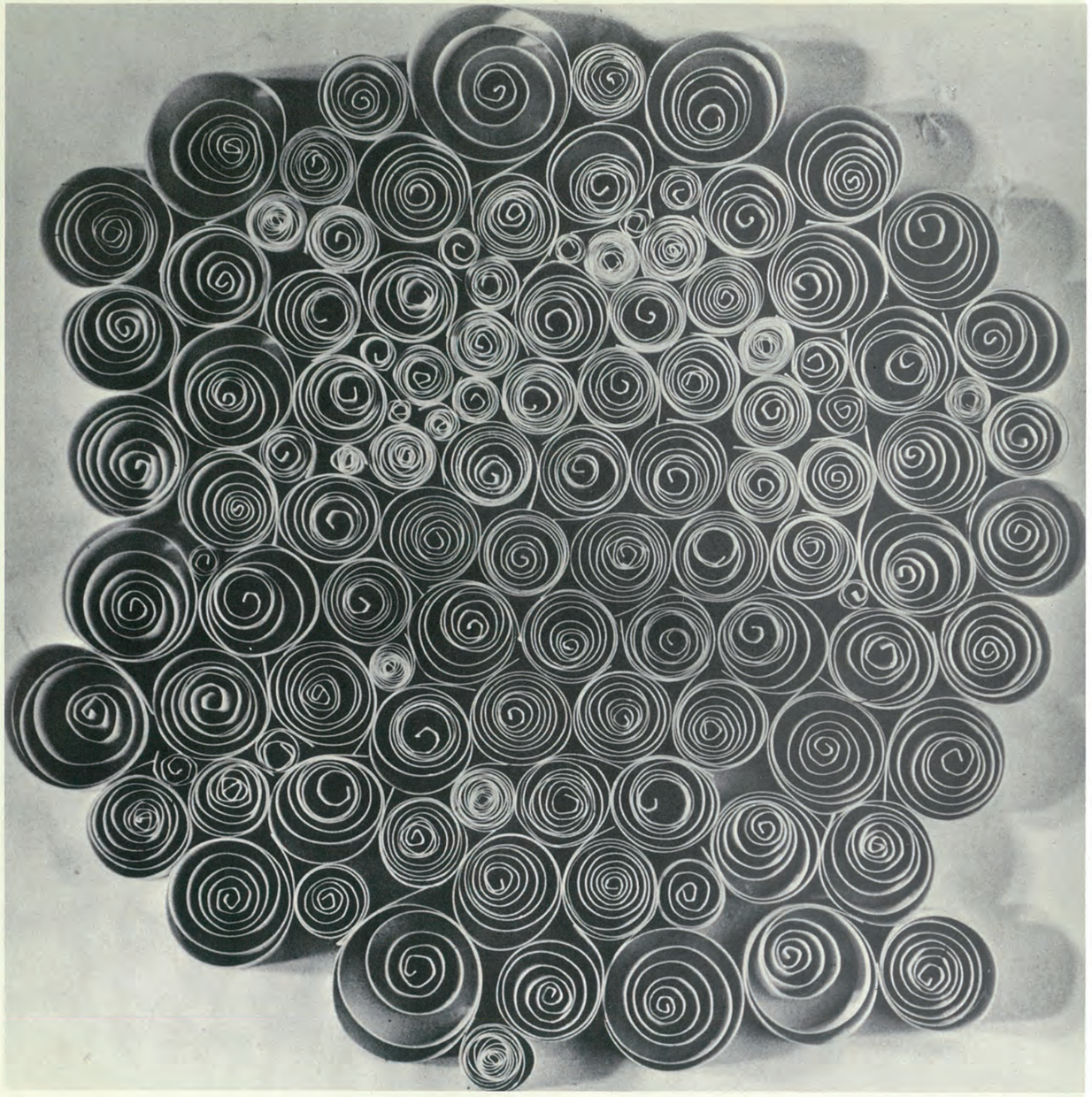
美術では、絵画および彫塑を行ないますが、ここでは、自然の形の成り立ちをつぶさに見つめ、形の中にある力の相互関係や空間的広がりを正しく把握し、表現することによって、ものを見る確かな眼と描写力の訓練を行ないます。

基礎表現実習は、デザイン専門の分野で必要とされる表現技法の初歩、およびデザインの概括的な知識について学びます。

理論科目は、デザイン活動の広い基盤を理解するために、４科目が置かれております。基礎表現実習および造形理論は自由選択科目となっております。

授業は、内容、時間とも夜間の学生にとっては相当厳しいものですが、造形感覚を学びとろうとする人やデザインに関連ある技術をもつ人、現在デザインの仕事に就いている人にとっても概念にとらわれない新鮮な感覚や、発想の基礎を身につけるには最適の場であるといえましょう。





II部

デザイン科

概要

GD-I／GD-II／PK／ID／家具／INT／DDA／DDB

II部デザイン科は、すでにデザインの基礎を習得し、さらに専門家を志して、そのための技術と知識を深めることを望んでいる人、あるいは現在デザインの仕事に就いていて、その新たな展開を望む人を対象に設置されています。デザインも、ようやく、産業界や生活の場に定着しつつあるという時点にさしかかっています。またデザインの本質や、機能とか目的が、段々に明確にされてくるにつれて、デザイナーの能力に対する期待や要求も厳しくなってきています。

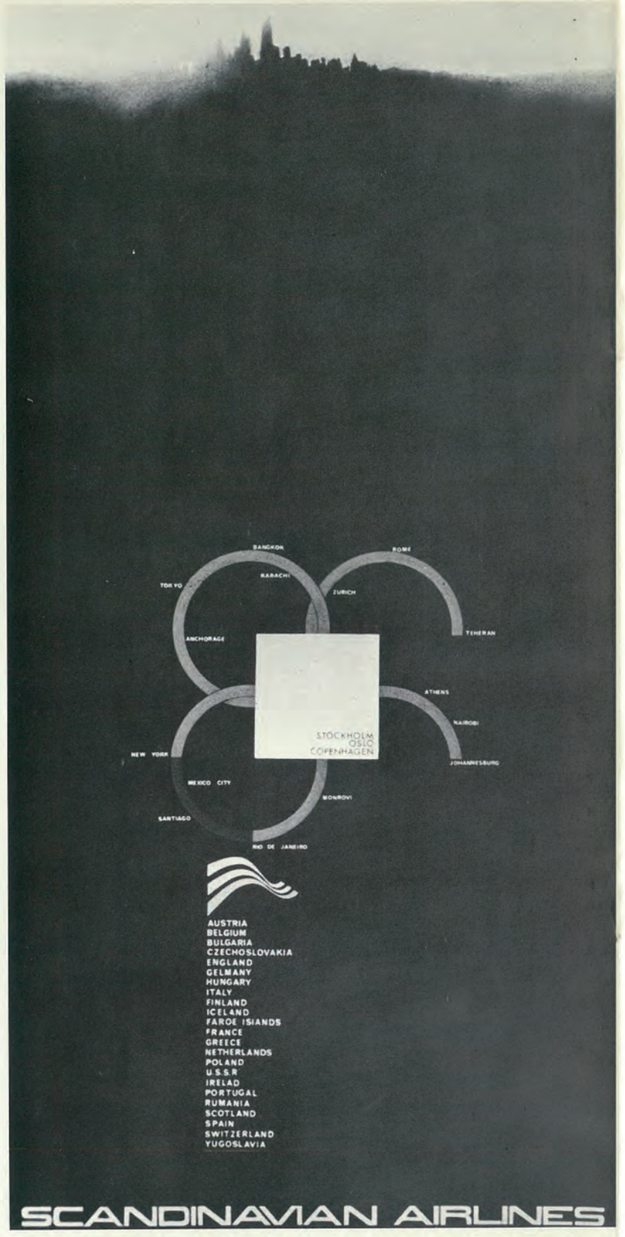
デザインは、現代文明を形成する責任の一端を担っています。それだけに、技術革新と相まって急速に進歩する産業界や、それとともに目まぐるしく変貌する社会や生活環境から受ける影響も著しく、新たに開かれた局面にも十分対処していかなければなりません。従って、今後デザイナーが学ばなければならない技術や知識は、益々多岐にわたって、深さとともにその数も増えてくるでしょう。そして、それらを基礎としながら、既成の概念にとらわれずに発想し、思考する訓練を重ねることによって、自己の創造性を再開発していくことが大切です。

デザイン科は、グラフィックデザインI、グラフィックデザインII、パッケージング、インテリアデザイン、家具デザイン、インダストリアルデザイン、ドレスデザインA、ドレスデザインBの各コースに分れていますがいずれも前述の考え方から、今後のデザインに不可欠な創造の能力を与えることに目標を置いています。

また目的によっては、2つのコースを併修することもできます。

なお、この科の入学資格は、デザインの実務経験をもっている人、あるいはデザインや造形の基礎を学んだ人です。

●入学資格については7ページの第II部の欄を参照してください。



GD-I

デザイン科 グラフィックデザインIコース

●科目内容

●グラフィックデザイン

デザイン

タイポグラフィ

シンボル

色彩構成

必修選択〈写真／描写〉

自由選択〈現代デザイン論〉

このコースは、グラフィックデザインを学ぶうえに必要と考えられる基本的な諸問題について、それを理解するための能力と、デザインの諸要素を視覚的に表現するための能力を、育成することを目的として、授業が行なわれます。

グラフィックデザインの基礎を学ぶ人、デザインの基礎的段階を履修しなくて実務についている人、また再度履修して新しい基本的な問題を研究しようとする人などに適したコースです。

グラフィックデザインに限らず視覚的な表現方法を用いる分野でもこのコースで行なう基本的な科目を学ぶことは有効であるといえましょう。

グラフィックデザインの基本的な学習の方法として、文字を主体的に表現する方法と、絵画的な表現方法があります。

文字を主体にしたものとしては、レタリング、活字による可読性の研究など、いわゆるタイポグラフィによる表現についての研究があります。

一方、絵画的なものとしては、シンボルなどの造形性について考え方とその表現方法、色彩による感覚練習などがあります。またこれらを表現するための基盤となる印刷概論、デザイン理論の講義が、同時に行なわれます。

GD-II

デザイン科 グラフィックデザインIIコース

●科目内容

●アドバタイジングデザイン

シンボル・マーク

ロゴタイプ

雑誌広告／新聞広告

ポスター

●エディトリアルデザイン

タイポグラフィ

装幀／レイアウト

必修選択〈描写／写真〉

自由選択〈現代デザイン論〉

グラフィックデザインIIのコースでは、主として広告・編集・装幀関係のデザインを希望する人に適したコースといえましょう。このコースへの入学資格としては、II部のグラフィックデザインIのコースを修了した程度の、デザインに関しての基本的な考え方と、表現技術を持っていることを前提とします。

授業は大別して、アドバタイジングデザインとエディトリアルデザインについて行なわれ、それぞれのデザインについての意味を正しく把握すると同時に、その表現能力を育成します。

アドバタイジングデザインは、現代社会のグラフィックデザインの中では大きな比率を占めています。そのために、この種のデザインを志す人は、デザインについての正しい認識を持ち、的確なコミュニケーションを行なうことが必要です。この考え方にもとずき、授業がすすめられます。シンボル・トレードマーク・ロゴタイプなどの基本的なデザインから始まり、雑誌広告・新聞広告・ポスターなどのデザインについて適切な指導が行なわれます。

また、エディトリアルデザインでは、雑誌や単行本など書籍類に関しての編集方法、装幀やレイアウトについて基本的知識を修める演習・実習と、タイポグラフィ・製本・出版について現実面での特別講義により、一層効果的にエディトリアルデザインについての諸問題を、総合的に理解し、発展させていきます。

PK デザイン科 パッケージコース

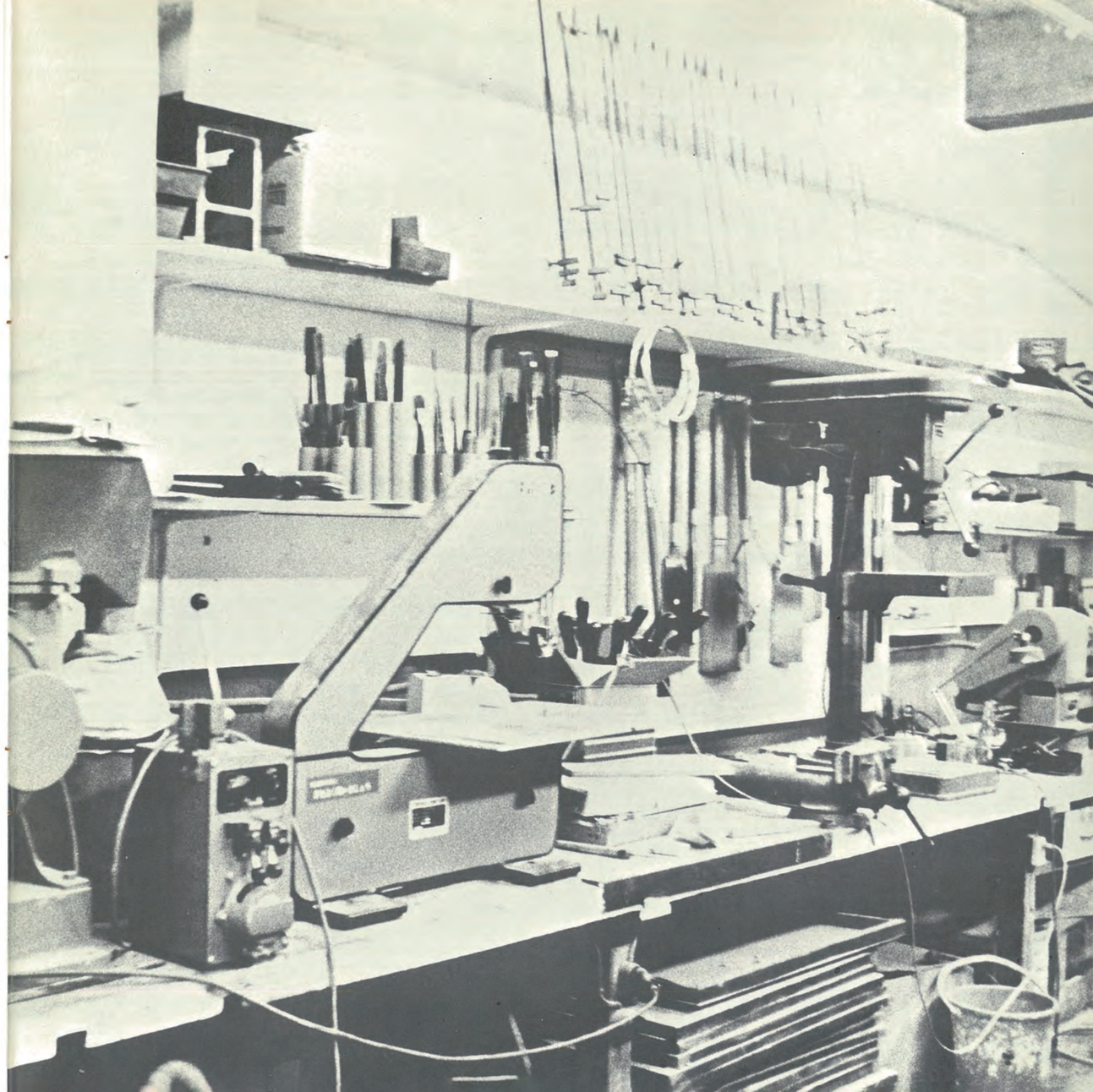
●科目内容
●パッケージデザイン
デザイン
パッケージング論
材料概論
必修選択〈描写／写真〉
自由選択〈現代デザイン論〉

このコースは、パッケージングに関係のある仕事を専門にしていきたい人や、現在パッケージングのデザイン、および関連する仕事にたずさわっている人を対象としています。
生産・流通・消費という流れの中で、とくに重要視されているパッケージングは、日常生活に密着し、欠くことのできない重要なものとして、その位置を占めております。
パッケージングは分類上、工業資材・機械器具・精密機器などの工業製品を輸送するに当っての保護や、保管を中心とした輸送包装と、広く消費者を対象として、大量に生産され、大量に販売される飲食品・化粧品・薬品・洗剤・衣料品・日用雑貨類などの保全と、商品としての促進効果を合わせもっている消費者包装に分けて考えることができます。
このパッケージングコースでは、主として消費者包装におけるデザイン、および関連する各種の作業をすすめる上で、必要とされる基礎的な問題はもちろん、内容物の明示と、販売を促進するために必要な、表面デザインの演習を中心に授業がすすめられます。
一方、内容物を衝撃などの外的条件から保護すると同時に、消費者が使用するに当っての便利性も考慮する、いわゆる構造・機能についても、それに付随させ、発想から定着に至る演習もすすめます。また、表現上必要とされる材料技術、デザイン理論などについても、これと平行させておこない、要素的になることを避け、総合的かつ効果的な授業をすすめていきます。
限られた時間の中で、単なる知識としてではなく、機能面と造形面を関連させ手を動かしつつ問題を把握、展開していきます。その中で解決点を見出し、豊かな発想と表現力を習得することを目的としています。

ID デザイン科 インダストリアルデザインコース

●科目内容
●インダストリアルデザイン
デザイン
デザイン製図
レンダリング
現代デザイン論
自由選択〈現代デザイン論〉

このコースは、工業デザインや家具デザイン、その他立体デザインの業務にたずさわっている人を対象に、主としてデザインの表現力の習得を目的としたコースです。
工業デザインにおける表現技術の役割には第1に発想を正しく形に表わし、デザインに定着させていく作業の効果を高めるものであること、第2に完成したデザインをいろいろな立場の人々に的確に伝達できるものであること、第3にデザイン管理が合理的におこなわれ、生産の能率化をはかることに役立つものであること、という3点が考えられます。そして、その技法や、伝達、保存のための手段として、製図、スケッチ、レンダリング、モデル、仕様書、報告書管理法などをあげることができます。
これまでこうした技法や手段は、他分野のものを固定的に踏襲している傾向がありましたが、今後、産業の中でのデザインの立場や役割からみれば、これは決して十分な方法とはいえません。
ここでは、主としてデザイン製図とレンダリングを中心に授業をおこないますが、単にそれぞれの技法の上達を目指すというばかりでなく、前述した表現技術の役割を考え、それに即した技法の習得を目的としてすすめます。そして課題には、具体的デザインをテーマにとりあげ、その発想から完成に至る各段階に応じて、造形、技術の両面にわたるデザインの内容を、客観的に正しく第三者に伝達するための技法を学びます。
工業デザインを専門とする人はもちろん、パッケージングや家具デザインなどにたずさわる人にとっても、表現力を高めるのにふさわしいコースです。
なおこのコースに入るには、第三角法正投影図法および透視図法の理解と、描図する力が必要です。



家具

デザイン科
家具デザインコース

●科目内容
●家具デザイン
デザイン
家具構造
加工技術〈木材／金属／プラスチック／籐／竹〉
塗装
現代デザイン論
自由選択〈現代デザイン論〉

このコースは、現在家具やインテリアデザインの分野、その関連の仕事に従事している人、およびデザインや造形の基礎を学んだ人を対象としています。
このコースの目的は、建築よりもより人間とじかにふれあい、建築と生活との接触点におかれる道具である家具を、ひとつは人間の行動寸法、生産方式、経済性、市場性、インテリアとのかかわり方などからの追求と、ひとつはプロポーション、材料構造、加工技術、形などの造形面からの追求とを関連させながら授業をすすめます。
現在私達が身近かに接するハーマンミラー、ノル、アスコなどといった量産家具のデザインの水準の高さはわが国のその分野における研究不足を感じさせます。ですからこのコースの指導の中心もマスプロダクションにおける家具デザインにおかれています。科目は、家具デザインと、家具工作の２科目にわかれています。
家具デザインは、年間３～４課題により具体的なデザインを進めますが、人間と物とのかかわりあいといった広い範囲の問題を含めて研究し、その処理方法を考え、デザインを生産に移行させる技術を検討、追求し、個人の発想が的確に製品としての家具として完成させる過程を理解し、把握します。課題においては、個人が各自それぞれの発想と思考で進める場合と、共同で進める場合とがあり、それぞれに応じた指導がなされます。
家具工作は、家具デザインにおける一般的知識に対する講義による授業で、家具構造、木材とその加工技術、金属とその加工技術、プラスチックとその加工技術、籐、竹とその加工技術、塗装の講義が行なわれます。

INT

デザイン科
インテリアデザインコース

●科目内容
●インテリアデザイン
デザイン
インテリアエレメント
家具概論
照明
ディスプレイ
建築一般構造
現代デザイン論
自由選択〈現代デザイン論〉

このコースは、現在インテリア関係（建築、家具など）の実務についている人や、その関連の仕事に従事している人、およびデザインや造形の基礎を学んだ人などを対象としています。
このコースの目的は、住宅やオフィスなど人間が生活する内部空間とその環境とのあり方を、広い展望からの授業をとおして把握し創造することにあります。たとえば、人間の行動寸法と空間の必要量、使用上の諸条件と空間設定、使用者の心理などといった機能面からの追求と、空間のプロポーションや、空間を構成する材料、テクスチュア、色、光などを総合した造形面からの追求、および家具やその他の可動な設備、厨房や冷暖房、給排水、空調などの不動な設備についての知識とを関連させながら、発想から完成までを具体的なデザインをテーマとして研究します。科目はインテリアデザインとインテリアエレメントの２科目にわかれています。
インテリアデザインは実習科目で年間２～３の課題によって授業がすすめられます。課題は具体的なインテリアデザインを各自がそれぞれの発想と思考により自主的に追求します。その実習指導は、各個人個人に応じて行なわれます。指導においては、その課題に対する思考過程に重点がおかれます。課題の提出は各個人の能力に応じた表現方法がとられますが、客観的な的確な表現が求められます。
インテリアエレメントは、インテリアデザインの一般知識に対する講義による授業で、その内容は、家具概論・照明・ディスプレイ・建築一般構造などが行なわれます。

DD－A

デザイン科
ドレスデザインＡコース

●科目内容
●ドレスデザイン
デザイン
コスチュームドローイング
専門講義
自由選択〈現代デザイン論〉

このコースは、現在ドレスデザイン関係の実務についている人を始めとして、服飾関係の専門的な仕事の経験を１年以上持つ人、デザインや造形の基礎を学んだ人などを対象として置かれています。
このような人々が、さらに専門的な知識とドレスデザインを学ぶうえに必要とする基本的な諸問題について、それを理解するための能力と、視覚的に表現できる力を育成することを目的としています。
現在の服飾産業において、一品製作としての個のものから、既製服という量産デザインまでの巾ひろい分野に対応しうる教育システムを目標として、実習および講義が行なわれます。
授業の内容としては、生活環境と衣服、衣服の種類と性格など、基礎から応用面への表現実習を重ねて、各自のデザイン感覚や発想力を高めるとともに、それらを表現し、ドレスデザインに定着させ、的確に伝達できるものにします。
一方、表現技術のトレーニングとして、とくにコスチュームドローイングをとおして、デザイン画としての表現力を養い、同時に衣服の構造理論などが立体との関連性における重要な基礎がためとして加えられています。
また各専門分野の講師による服飾デザイン論、流行の変遷などが専門講義として、実習と平行して行なわれます。なお、広くデザイン各分野にわたる講義もあわせ行なわれます。

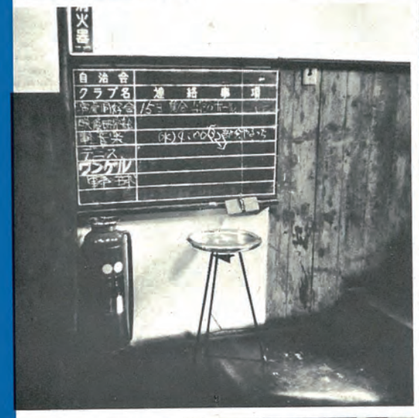
DD－B

デザイン科
ドレスデザインＢコース

●科目内容
●ドレスデザイン
製図
モデリング
コスチュームドローイング
専門講義
自由選択〈現代デザイン論〉

このコースでは、現在ドレス関係の実務についている人、デザインや造形の基礎を学んだ人、あるいは服飾関係の学校で、２年以上の課程を修了した人などを対象としています。
このコースの特色は、近年とくに既製服業界などで重要視されてきたパターン（型紙）の作図法に重点をおき、人体の構造と機能面を考慮した原型パターンを活用して、能率的な作図法を主に実習授業を行ないます。
さらに、デザインを的確に立体に表現する技術能力を高めるため、衣服の形態、量感、素材、構造などの把握が必要なので、平面作図と平行させながら、ドレーピング（立体裁断）とモデリングの表現実習も行ないます。
短い期間のなかで、作図とモデリングの基本的な考え方と、基礎から応用面へのトレーニングをとおして、実社会の仕事に対応できる人を育成することを目的としています。
科目は、ドレス作図とモデリング、コスチュームドローイングの３科目にわかれています。
ドレス作図は基礎作図の理論と実習から応用面に展開させ、ドレーピングの初歩とグレーディングの実習、モデリングは前期に平面作図の裏づけとしてのディテール、後期では各自がそれぞれのテーマと条件設定によって発想から完成に至る過程の思考と造形の追求をしながら、立体に表現する技術能力を高めます。
コスチュームドローイングは、初歩の技法としてのデザインの表現伝達に必要な基礎技法の実習が行なわれます。

学生部

森沢デザイン研究

自治会
クラブ名
連絡事項
ウンゲル

就職・求人状況

●修了生／卒業生は労働省認可の桑沢デザイン研究所無料職業紹介所によって就職できます。ここに掲載されているものは、昭和44～46年の業種別求人の主だったものです。

〈繊維会社〉

市田
イトキン
オーミケンシ
クラレ
グンゼ
小杉産業
敷島工業
蝶理
丸増
ユニチカ
吉忠
レナウン
他

〈既製服会社〉

相原幼児
厚木ナイロン工業
一珠
岩島
大倉
岡村
オールスタイル
櫻山
カントー
キャピタル工業
キャラバン
木村坦
銀座マギー
河野
コマンド
三紫
三陽商会
白樺
ジャルダン
シャルマン
鈴屋
タック
田丸セーター
チャイルド
ツバメコート
つるや産業
東京スタイル
東京ニュースター
東京ブラウス
東京ライフ
東京ルックス
内外編物
中西商工
日新
日本ユニホームセンター
花咲
バン・ジャケット
樋口商店
ベルトリコ
マミーナ
馬里邑
メリノ
モック
横山
ワコール
チェリー
他

〈百貨店〉

伊勢丹
三愛
西武
大丸
高島屋
阪急
三越
他

〈家具／建築／建設会社〉

イズミ家具インテリア
東邦ウインド建設
東洋装備
西川産業
富士工務店
三越製作所
他

〈展示／装飾／室内施工会社〉

市瀬装備社
皐月装工
柴山工芸
丹青社
デコールハタ
中村展設
日本工芸社
白水社
乃村工藝社
富士工
他

〈建築設計事務所〉

伊藤喜三郎建築研究所
岡田哲郎建築設計事務所
鈴木設計事務所
竹山実建築総合研究所
中田建築設計事務所
他

〈デザイン事務所〉

ID／インテリア／家具

アイ・エム設計事務所
ＧＫインダストリアルデザイン研究所
ＴＡＵ室内デザイン事務所
NIDOインダストリアルデザイン事務所
皆川デザイン事務所
祿インダストリアルデザイン事務所
他

〈デザイン事務所〉

グラフィック／パッケージ／写真

ＩＣＡデザイン研究所
アド・アイ
カイプロダクション
麹町企画
小松崎デザイン研究室
シバタデザインセンター
スタジオcgs
第一宣伝社
東京グラフィックデザイナーズ
東京デザイン
東京フォト・アート
東京アドセンター
長野デザインセンター
日活アドエージェンシー
日本デザインセンター
ニューライトエージェンシー
ノバグラフィック
パッケージングディレクション
羽生道雄デザイン研究室
ＰＯＰセンター清水
藤森武アトリエ
ＹＡＯデザイン研究所
他

〈製造会社〉

アート・コーヒー
アルビオン
川島洋紙店
カンロ
麒麟麦酒
京都デザイン
キョーラク
黒井電機
小林コーセー
三協精機
資生堂
大日本文具
東芝
中川電機
日産自動車
バビリオ
ビジョン
日立製作所
不二家
プラチナ万年筆
ホクセイアルミニウム
本州製紙
本田技研
松下電器産業
美津濃
三菱鉛筆
モリタオル
ロッテ
山崎製パン
八欧電気
他

〈洋装店／服飾アトリエ〉

イシゲデザインセンター
オートクチュールジョリー
中村乃武夫アトリエ
ルネプラニングセンター
他

〈広告代理店〉

東急エージェンシー
トンプソン
静岡広告
双葉通信社

〈印刷会社〉

光村オフセット印刷
精華印刷
大日本印刷
大巧美術印刷
東京刷版
凸版印刷
日立印刷所
他

〈出版社〉

近代光学出版社
研究社
玄光社
講談社
ゴルフダイジェスト社
集英社
主婦と生活社
主婦の友社
スタイル社
第一法規出版
中外出版
婦人画報社
フレーベル館
文化出版局
他

〈その他〉

日本リクルートセンター
日本流行色協会
他